

注入部位による受胎率の差

子宮頸管浅部(1cm未満)	27.0%
子宮頸管深部(1～3cm)	45.9
子宮内	68.6

緬羊で行われているような腹腔鏡とプローブ(探り針)を用いて直接子宮角内に注入する方法については、受胎率が高いものの技術的に難しいのと手間がかかるという問題があるほか、山羊の場合には頸管の深部注入でも50～70%の受胎率が確保できることから国内ではほとんど行われていません。

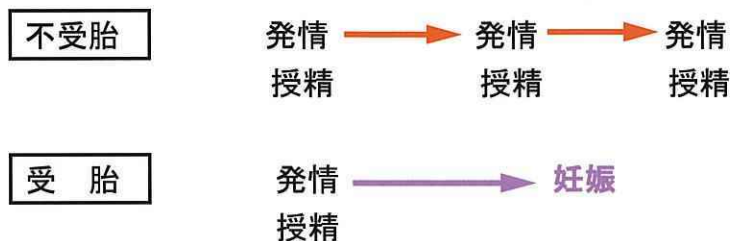


IV. 受胎・分娩

1. 受胎確認

(1) NR(ノンリターン)法

約21日の間隔で繰り返される発情が、妊娠した場合に停止することを利用した最も簡単な受胎確認方法です。ただし、妊娠発情を示すものがあるため信頼性に欠けるとともに、季節外繁殖の場合のように発情が周期的に来ない場合等においては利用できないという問題があります。



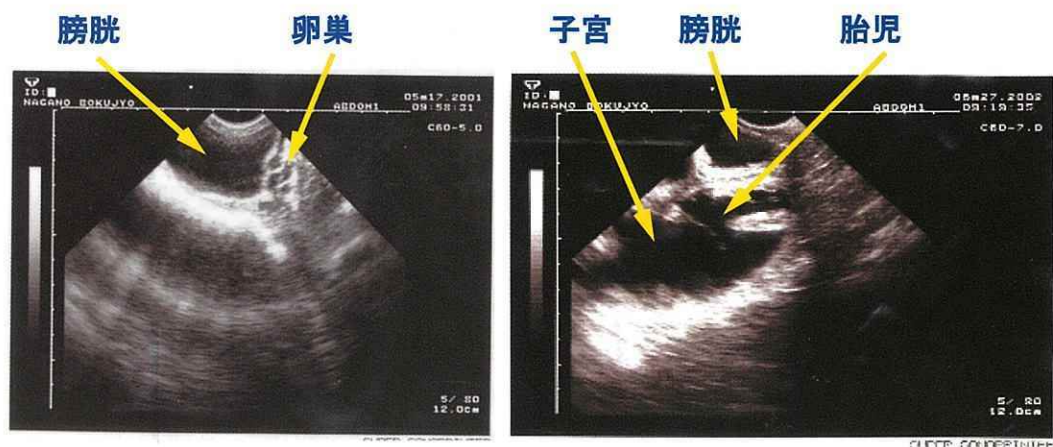
(2) 超音波診断

① 超音波画像方式

受精卵及羊水を画像として見るもので、交配32日以後(50～100日の間に行うのがベスト)にかなり高い確率で診断が可能な方法です。この方法の判定精度は100%であり、産子数の判定も96～97%の精度で行うことができます。使用するプローブはヒト用経膣プローブで、これにシース(コンドームも使用可)をかぶせ、専用のゼリーを塗り付けた上で膣へ挿入します。



卵巣や子宮は膀胱(尿があるので黒く写る)を目印にその周辺をゆっくり探ることで発見、観察することができます。



② 超音波ドプラー方式

胎児の心音又は血流音を確認するもので、交配60日以後において診断が可能な方法です。この方法による判定精度は90%以上ですが胎児数を予測することはできません。

(3) 子宮頸管粘液

子宮頸管粘液については、発情期には主として唾液様で、発情休止期は主として卵白様である一方で妊娠期にはかたくりゼリー様～餅ゼリー様になることが知られていますので大雑把な妊娠診断法として使用することができます。

妊娠期間による粘液像(例数66)

妊娠期間	粘 液 像			
	唾 液 様	卵 白 様	かたくりゼリー様	餅ゼリー様
16～20日	1		4	2
21～30日		2	8	1
31～40日		2	3	3
41～60日			3	3
61～90日			5	8
91日～			2	19
割 合	1. 5%	6. 1%	37. 9%	54. 5%

【参考】

発 情 期;唾液様75. 0%、卵白様25. 0%(例数32)

発情休止期;唾液様17. 6%、卵白様70. 6%、かたくりゼリー様11. 8%(例数17)

(4)触診等

妊娠3～4カ月になると腹囲の増大が見られるとともに、妊娠4カ月以降において腹部を下から持ち上げた際に妊娠して胎児がいる場合にはコツコツとした固い物に当たる感触が分かることや右腹部で胎動を確認することにより妊娠が分かります。

(5)その他

血中・乳汁中ホルモン(プロジェステロン)の測定等があります。

2. 分娩時期

妊娠期間は151日前後ですので、分娩予定日を計算し、適切な準備等を行って下さい。(最終種付け日から何日目に分娩するかを妊娠期間とした場合)

ただし、品種、産子数、産次によって差があるので145～155日の範囲と考えておいた方が無難です。妊娠していても発情が来る場合が

種付け時期による分娩時期の目安

9月種付けー2月分娩

10月種付けー3月分娩

11月種付けー4月分娩

ありますので、山羊の状態をよく観察して、予定日の21日前に子山羊が生まれ

たり、分娩誘起をしたら1周期(21日)早い未熟児であったということがないように気を付けて下さい。

また、産子数や産次によって妊娠期間は異なり、一般的に多子の場合は単子の場合より妊娠期間は短く、初産の場合は経産の場合より妊娠期間は短くなる傾向があります。

【妊娠期間】

単子 $\geq$ 他子

経産 $\geq$ 未経産

4. 流 産

▶ 流産は妊娠35～45日と90～115日の間に生じやすい！

(1) 流産の原因

流産はビタミンA欠乏、妊娠中毒、感染症により生じます。ホルモンのところでも記述しましたが、山羊は妊娠期間を通じて卵巣のプロジェステロンが主として妊娠維持を行うため、胎盤におけるプロジェステロンが妊娠維持の主役となるめん羊に比べて流産しやすいという特徴があります。特にアンゴラ種は他の品種に比べて流産が起こりやすいことが知られています。

生理的な要因による流産の起こりやすい時期は妊娠35～45日の間と妊娠90～115日の間とされています。

山羊における流産の原因

感染症によるもの	その他の原因によるもの
流行性流産(クラミジア)	腹部の打撲(転倒、他との闘争)
トキソプラズマ	毒草等による中毒
マイコプラズマ	ストレス
サルモネラspp	栄養失調
ビブリオ(キャンピロバクター)	欠乏症(ビタミンA、マグネシウム)
Q熱	不注意な薬物の投与
ヨーネ病	プロスタグランディンの投与
リステリア	

(2) 流産の場合の処置

連続して流産が起こるような場合は感染症による流産の可能性がありますので、獣医師に見てもらって下さい。また、流産した山羊は隔離するとともに後産や流産胎児はビニール袋に入れて処分して下さい。